

Yuta Tamura

Official Website: <https://gallery.yutatamura.art>

Instagram:  Instagram (@yutathetamuu)

田村 勇太

1987年、兵庫県生まれ。神戸市を拠点に活動。

田村勇太は、平面、半立体、インスタレーションなど複数の表現媒体を横断しながら制作を行う現代美術家である。これまで、ピクセル表現を用いたキャラクター作品や抽象絵画、植物をモチーフとした絵画作品など、多様な表現を展開してきた。現在は、植物や土、縄、布などの素材を用いた作品を中心に制作している。

田村の制作には、表現方法や素材が変化していく中でも一貫して、物質や存在との関係を見つめる姿勢がある。素材を単なる制作の手段として扱うのではなく、それぞれが持つ性質や時間の経過を受け入れながら、変化していくものとのように関わることができるのかを探っている。

異なる媒体や素材を通して展開される作品は、固定された形態や完成された状態のみを提示するのではなく、素材の変化や鑑賞者、展示される場所との関係の中で、多様なあり方をひらいていく。

アーティスト ステートメント

私は、物質や生命、身体、記憶など、あらゆる存在は互いに関係し合いながら世界のなかにあり、そのあり方は絶えず移り変わっていると考えている。存在は関係を結び変えながら、異なるあり方へと移り続けていく。

私は植物や土、縄、布など、時間とともに変化する素材を用いて制作を行っている。作品は、鑑賞者や場所、環境との関係のなかで変化を重ねながら、その都度異なるあり方をひらいていく。その変化もまた作品の一部であり、作品はその過程そのものとして存在している。

私にとって変化は目的ではない。それは、存在が新たな関係へとひらかれるための条件である。私は、存在を固定された状態としてではなく、関係のなかで絶えず変化し続ける過程として捉えている。私にとって重要なのは、変化の前後を比較することではなく、変化そのものが新たな関係を生み、その連なりのなかで時間が立ち現れることである。

作品は、こうした世界の見方を鑑賞者や場所との関係のなかでひらいていく。作品がそれぞれの経験や記憶と響き合うことで、身近な存在や日常の風景を、これまでとは少し異なる眼差しで見つめ直す契機となることを願っている。

CV

個展・二人展

2026

『あの日の私が呼んでいる』 | きらくえんギャラリー(兵庫)

2024

『Player 0』 | きらくえんギャラリー(兵庫)

『YUTA TAMURA』 | SOKA ART(台北)

2023

『「名前はまだない。」』 | Goyo Gallery(東京)

『Hello, Real World.』二人展 | Gallery NOWHY(ソウル)

2022

『8 Bit Journey』 | NEPTUNE GALLERY(台北)

『風景と心象の関係性について』 | きらくえんギャラリー(兵庫)

2021

『HEYANIBOTANICA』 | ギャラリールナ(兵庫)

グループ展

2026

『Art Parade』 | 大丸京都店(京都)

2025

『Edition One: Materiality』 | The Handbag Factory(ロンドン)

『DREAM HACKERS & NEO TOTEMS』 | Joyman Gallery(バンコク)

2023

『Thinkspace x STRAAT: NDSM Group Show』 | アムステルダム

『Cicada Call』 | NOKE(台北)

『Hawaii Walls 2023』 | ハワイ

『e to oto to』 | +ART Gallery(東京)

『Existential』 | Antler Gallery(ロサンゼルス)

2021

『Japan-Austria Art-exchange Exhibition』 | art-P(ウィーン)

2019

『Japan-Austria Art-exchange Exhibition』 | OAG(東京)

『Pink』 | Voyagers Gallery Tokyo(東京)

アートフェア

2026

Hotel Art Fair | Joyman Galleryより出展(バンコク)

Kobe Art Marché | Hakkendoより出展(神戸・神戸オリエンタルホテル)

Art@Ginza | Hakkendoより出展(東京・ホテルモントレ銀座)

2025

余白のアートフェア | 福島

2024

MOORDN ART FAIR | 広州

Art Xiamen | 厦門

Thailand Mango Art Festival | バンコク

2023

Thailand Mango Art Festival | バンコク

2022

3331 Art Fair | 東京

Art Fair Asia Fukuoka | 福岡

文献掲載

2025

『Al-Tiba9 Magazine』Issue #16

受賞歴

2025

IAG AWARD 2025 | 掛川市特別賞

『いい芽ふくらめ in 大阪 2025』| 優秀賞・ギャラリー賞3賞

『Namiki Gallery Open Call Exhibition』| 審査員特別賞

(個展・グループ展ともに一部を抜粋しております)

Artwork

Pixel



Title: Universal Century

Year: 2024 Size: 234 x 234 x 4cm

Material: mixed media on wooden panel



Title: Spun

Year: 2025

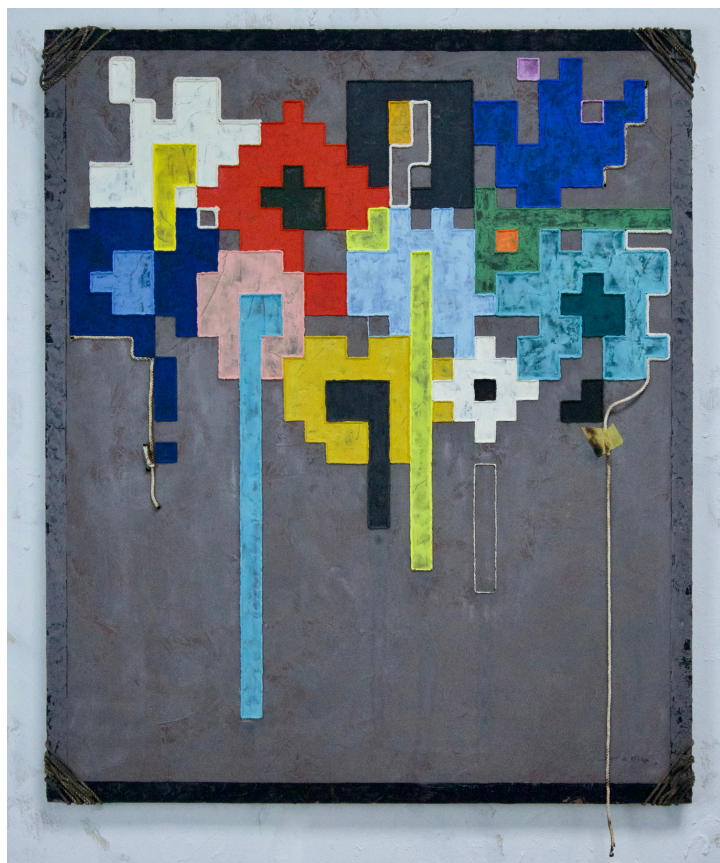
Size: roughly 60 x 55 x 15cm (including a cloth, thread, branch)

Material: mixed media on wooden panel



Installation view, **“I have, as yet, no name.”**

, Goyo Gallery, Tokyo, Japan, 2023



Title: Pangaea

Year: 2026 Size: 72.7 x 60.6 x 3cm

Material: Mixed media on wooden panel



Installation view, **8-Bit Journey**, Neptune Gallery, Taipei, Taiwan, 2022

Current Practice

私の現在の制作は、変化と時間の関係への長年の関心から発展してきた。

初期のピクセルを用いた作品では、ピクセルという概念そのものに時間を与えることに関心を持っていた。デジタルイメージは、しばしば固定された不変のものとして理解される。しかし私は、そのような永続性のなかに物質的な変化を導入することを試みた。物理的な作品が風化し、経年変化し、変わり続けることを通して、永続性と結びつけられるイメージであっても、時間の流れのなかに存在しうる可能性を探っていた。

次第に、私の関心はイメージそのものから、作品がどのように存在し続けるのかという問いへと移っていった。変化を表現するのではなく、作品自体が実際に変化し、その変化を通して新たな関係を生み出していくことに関心を持つようになった。

現在は、土、乾燥した植物、縄、布、木など、時間とともに変化し、周囲の環境に応答する素材を用いて制作している。これらの素材は単一の状態に留まらず、人や場所、環境との関係のなかで風化し、朽ち、形を変えていく。私は作品そのものが土のように、さまざまなものを受け入れ、そこで生じた関係の痕跡を蓄積しながら変化し続けることを目指している。

素材や形態は変化したがるが、根底にある関心は変わっていない。私が見つめているのは、存在が変化することで関係を変えながら、どのように別のあり方へ移り続けるのかということだ。そして私たちは、その変化する存在との関係のなかで、そこに流れる時間を経験する。

以下に示す作品群は、この継続する探究の一部である。



Title: My Euangelina

Year: 2026 Size: 93 x 74 x 4cm

Material: Mixed media on wooden panel



Title: 海色の草原

Year: 2026 Size: 23 x 28 x 3cm

Material: Mixed media on wooden panel



Title: 帰り道

Year: 2026 Size: 18 x 18 x 3cm

Material: Mixed media on wooden panel



Title: 眠りの庭

Year: 2026 Size: 34 x 34 x 3cm

Material: Mixed media on wooden panel